

鎌倉映画茶論【ジャンヌ・ダルク】

「カフェサンスーシ」映画鑑賞の集い
名作は何度見ても新たな発見と感動を与えてくれます



6月21日(木)

16時より無料上映

中世英仏戦争の悲劇！

於：カフェサンスーシ
(鎌倉雪の下3-10-23
清泉小正門前)

要予約 0467-23-7223

毎月第三木曜16時～感動の名画・永遠の名優と共にお過ごし下さい

～ 作品紹介 ～

1948(昭和23)年 米ヴィクター・フレミング監督 100分

イングランドとの百年戦争の最中にあつた15世紀前半のフランスを舞台にした物語
神の啓示を受けた少女ジャンヌ・ダルク(イングリッド・バーグマン)は、国王の元を訪れ
自分にフランス軍を指揮させてくれるよう懇願、少女の熱意は徐々に周囲を動かす
頹廢的となつた劣勢のフランス軍兵士にモラルと信仰心を説き、共に勇敢に闘つて
奇跡的な勝利を収め、祖国フランスを救いシャルル7世の戴冠に大きく貢献して
国民的ヒロインとなりながら、イギリスに買収された王家・貴族たちに背を向けられ、
やがて教会による裁判の結果、19歳の若さで魔女として火あぶりの刑となる悲劇
神への信仰・祖国への愛と、これを踏みにじる貴族社会の腐敗を描いた作品！

「風と共に去りぬ」のフレミング監督と当時としては破格の460万ドルをかけた大作、
油絵のような重厚で壮麗な映像、アカデミー賞にノミネートされながら、最優秀賞を
逃したのは、バーグマン本来の魅力が発揮できなかった役柄のためでしょうか？